

科目名	地盤工学 Geotechnical Engineering			担当教員	小竹 望		
学 年	5年	学 期	前期	履修条件	選択	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	14134049	単位区分	学修単位
学習目標	「土の力学」で学習した土質材料の物理特性・力学特性を踏まえ、それらを総合した実践的な問題を学習する。土圧問題、斜面安定問題、支持力問題など土の応力・せん断強さに係わる応用分野に係わる設計の考え方を理解し、実務に通じる設計計算に対応できる様に理論的背景を身に付ける。						
進め方	土質力学の基本概念を復習しながら実務的な設計法を理解する。代表的な演習問題に取り組むことによって、地盤工学における設計ならびに課題解決のための総合的な視野を涵養する。学修単位である。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格判定水準			
	1. はじめに(2) (1) ガイダンス、本科目の位置付け (2) 既習内容の復習 2. 土圧(6) (1) 極限平衡状態と極限土圧 (2) クーロン土圧 (3) ランキン土圧			<ul style="list-style-type: none"> 土圧の性質を理解できる。 極限土圧の算定法を理解し、簡単な構造物に作用する土圧が算定できる。 学習・教育目標 (B-2) 「土木工学の基礎知識」に関連する基礎的な科目である。			
	3. 斜面安定(6) (1) 安全率とその概念 (2) 極限平衡法と強度定数 (3) 無限斜面の安定解析 (4) 有限斜面の安定解析			<ul style="list-style-type: none"> 安全率および斜面安定における極限平衡法の考え方を理解できる。 無限および有限斜面の安定解析手法を理解し、簡単な斜面の安全率が算定できる。 			
	[中間試験] (2)						
	4. 基礎の支持力(8) (1) 支持力の概念と基礎の種類 (2) 浅い基礎の支持力 (3) 深い基礎の支持力 (4) 基礎の設計計算			<ul style="list-style-type: none"> 基礎の種類とその支持機構の違いがわかる。 浅い基礎と深い基礎の定義を把握し、それぞれの支持力算定法が理解できる。 基礎の設計の考え方を知り、簡単な基礎の設計計算ができる。 			
	5. 地盤環境(6) (1) 環境地盤工学の問題 (2) 土壌汚染と地下水 (3) 廃棄物・建設副産物の有効利用			<ul style="list-style-type: none"> 環境地盤工学に係わる諸問題を説明できる。 土壌汚染問題が説明できる。 廃棄物・建設副産物の有効利用が説明できる。 			
	期末試験 試験返却(1)						
評価方法	成績評価の内訳は、演習問題や課題レポートの提出状況を20%、2回の定期試験を80%として評価する。総合成績で60%以上を合格とする。						
履修要件	土の力学（4年）を履修済みであること						
関連科目	土の力学（4年） → 地盤工学（5年） → 環境防災工学Ⅰ、Ⅱ（AS1・2）						
教 材	教科書；土質工学(赤木知之ほか、コロナ社)（4年持上り），土木基礎力学2（3年持上り）						
備 考	本科目は、高等専門学校設置基準第17条第4項に規定する45時間の学修を必要とする内容をもって単位を認定される。						